令和６年１１月１１日

令和６年度埼玉県社会福祉大会の実施結果について
ともに支え合い明るい未来へ　～すべての人に健康と福祉を～

埼玉県の福祉の向上に功績のあった団体や個人の方々を表彰し、その功績をたたえました。

また、社会福祉の一層の増進を目指して、参加者一同の総意の下、「大会宣言」が採択されました。

１　日　時　令和６年１０月３１日（木）１３：００～１５：００

２　会　場　埼玉会館大ホール

３　概　要

（１）表彰

埼玉県知事表彰	個人３０６名	８８団体
埼玉県社会福祉大会会長表彰	個人６２３名	４７団体
埼玉県共同募金会会長表彰	個人　６９名	５０団体

（２）知事挨拶

本年７月３日、新たな一万円札が発行されました。そこに肖像として描かれている本県ゆかりの渋沢栄一翁は、５００以上の企業の設立に関わられたのみならず、６００を超える様々な社会福祉等の団体の設立にも関わられました。

全国社会福祉協議会の前身となる中央慈善協会の初代会長を務めるなど、我が国の福祉分野における草分けであります。

一方、現代、地域社会に目を向けますと、単独世帯の増加や、或いは核家族化の進行、そしてライフスタイルの変化などによって、地域のつながりがますます希薄になりつつあります。

このような社会の変化に対応すべく、令和６年４月１日には孤独・孤立対策推進法が施行され、同年６月には、国が法に基づく重点計画を定めることとなりました。

県といたしましても、埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを立ち上げ、行政、ＮＰＯ、或いは民間企業など社会のあらゆる主体が活動分野や地域を越えて連携し、支援のための知恵と資源を出し合う体制を整えるとともに、意識啓発や或いは相談窓口の情報発信を積極的に行っているところでございます。

ここにお集まりの皆様は、本県ゆかりの渋沢翁の精神を現代に受け継ぎ、日頃から地域活動を通じて、率先して人と人とがつながり、様々な工夫を重ねながら地域の福祉向上に対し、多大なる御貢献をいただいている皆様でございます。

私は今後とも、あらゆる人に居場所があり、活躍でき、そして安心して暮らすことができる「日本一暮らしやすい埼玉」の実現に向けては、皆様のお力添えが不可欠なことと確信しております。

（３）来賓祝辞【埼玉県議会副議長　松澤　正　様】

人口減少や急速な高齢化など、社会は大きな転換点を迎えています。また、８０５０問題、ヤングケアラー、ひきこもりなど、社会福祉に関する課題は複雑化、多様化し、そして地域コミュニティの希薄化が様々な問題を深刻化させています。

こうした中、地域社会に根ざした皆様の活動や福祉の現場で働く皆様のネットワークは、地域の支えあいの要であり、大変重要な役割を担っていただいております。

誰もが安心して暮らせる社会を実現していくためには、この大会のスローガンにもあるとおり、ともに支えあうことが何よりも必要です。

皆様がこのように一堂に会し、社会問題の解決に向け決意を新たにされますことは大変意義深いものと思います。皆様の働きかけや支援が多くの方に届き、地域全体で支え合う仕組みがさらに強化されることを願っております。

県議会では、ケアラーやひきこもりなど支援を必要とする方が安心して暮らせるよう、議員提案による条例を制定し、社会福祉の推進を後押ししてまいりました。これからも、県民の皆様の声をしっかり受け止め、誰一人取り残さず、誰もが自分らしく暮らせる社会、共生社会を実現するため全力を尽くしてまいります。

（４）大会宣言

我が国は、今、人口減少・超少子高齢社会の到来という、歴史的課題に直面しています。

また、長く続いたコロナ禍により、社会参加の機会が制限され、人と人とのつながりの希薄化が進むとともに、物価高騰の影響により、生活に困窮する方も増えています。

加えて、近年、自然災害は頻発化・激甚化しており、復興に向けた被災地支援において我々福祉関係者への期待も益々高まっています。

このような状況の中、誰もが身近な地域で安心して暮らしていくためには、住民、行政、企業、各種団体等の地域の多様な主体の協働が不可欠です。

今こそ、地域社会におけるつながりの重要性を改めて心に刻み、この困難に協力して立ち向

かう時です。

私たちは、「『支え手』『受け手』の関係を超えて、あらゆる人が地域を共に創り、一人ひとりが生き生きと暮らせる埼玉」の実現に取り組むことを決意し、ここに宣言します。

４　大会の様子